



11月の園だより

令和4年11月1日

目黒区立祐天寺保育園園長

散歩に出かけた子どもたちが、うれしそうにどんぐりを拾ってきました。実りの秋が深まり始めたようです。今月は裏面にて、乳児クラスの散歩の様子をお伝えします。

さて先月、今年度も運動会を園庭にて、幼児クラス参加で行いました。昨年同様にクラスごとの入れ替え制となりましたが、子どもたちの張り切る姿と保護者の方々との思いのつながりをとても温かく感じました。ご参加いただいた皆様ありがとうございました。

数日後、運動会ごっこと称して、園庭で再現がはじまりました。それぞれのクラスの競技をみんなで自由にやってみます。4歳クラスが使ったバルーンは、みんなが触れたくて仕方ありません。「やっていいの？」と5歳クラスの子もたちも大喜びです。また、3歳クラスのダンスを見て「かわいいね」と目を細めると楽しい時間が続きました。そんな中で、5歳クラスがキッズソーランをちょっと得意げに踊り始めると、たちまち周囲の子どもたちが加わり、自然に庭全体が踊り始めました。3歳クラスも4歳クラスの子もたちもなんとなく振りがわかっていて楽しそうです。運動会当日には、互いの競技を見ることはできませんでしたが、練習を見合う中でそれぞれが吸収してくれていたようです。異年齢の刺激が心と体を動かす、自然な育ちの繋がりを感じた場面でした。

11月には、各クラスで保育参観なども予定しております。子どもたちの日々の姿を保護者の皆様と共有できればと考えております。

<行事予定>

歯科検診（全園児）
乳児お楽しみ会（0、1、2歳）
中旬 避難訓練・身体測定

【12月の保護者参加の行事について】

『大きくなったね会』（3・4・5歳児）を行います。該当クラスの保護者の方は、是非ご都合をつけてご参加ください。詳細は後日お知らせいたします。

<芋ほり遠足> ～大きな芋が掘れました～

「天気予報は雨だったよ」「遠足、行けるかな」「雨でも行きたい」と天気を心配しながらも、遠足を楽しみにしていました。4・5歳クラス共に初めての芋掘り遠足でもあったので、子どもたちの思いが叶うことを願って当日を迎えました。

芋畑に着き、土の表面から少しだけ顔を出しているさつま芋を見つけると「お芋が見える」と歓声をあげていました。土の表面から芋が半分以上出ているのに、掘っても引っ張ってもなかなか抜けません。根っこに連なっている芋を見て「お芋同士がくっついているから抜けないんだ」と興奮した様子で掘り続けていました。時間をかけて一生懸命掘り、念願の何個も連なった大きなさつま芋を収穫すると「見て見て」と嬉しそうに持ち上げてそばにいた友達や保育士に得意げに見せていました。掘り出すことに集中し、やっと手にした時の喜びは格別だったようです。それを見た子どもたちも「わー、すごい」と共に喜ぶとともに、「自分も」とばかりに掘る力が増し張り切っていました。収穫後子どもたちは「芋が8個つながった」「こっちは6個」「小さい芋はねずみみみたいな形だったよ」等、友達同士で芋自慢を楽しんでいました。遠足の帰りに「すごい楽しかった」という声があちこちから聞こえ、皆で経験した楽しい思い出がまた一つ増えました。





<0・1・2歳児クラスの散歩の様子>



<ちゅうりっぷ組 (0歳児) > 『あ、あれなあに』

「しゅっぱつしますよ」と保育士が声を掛けると、バギーに乗っていた子どもたちが足をバタバタ動かして、まるで「早く行こう」と言っているかのようです。散歩先に向かっていく時「あつ」と言って指差しをする子がいました。その方向を見ると、トラックが走っていたので「大きなトラックだね」というと、にっこり笑い、うんうんと頷いていました。保育士にわかってもらえたことが嬉しかったようです。

初めて行った伊勢脇公園では、保育士の傍から離れず周りの様子を伺っている子もいましたが、保育士が葉や枝に触って見せると、「なんだろう？」と興味を持って手を伸ばしていました。保育士や友達に触れているのを見て安心して「触ってみよう」という思いとなり、この行為につながった姿でした。葉をつかむと、手を開いてじっと見たり、指先で葉をびりびりとちぎったりして不思議そうな表情でいろいろと試して何かを感じているかのようでした。

これからも、自分で歩いたり這ったりしながら探索活動をする子どもたちの思いに寄り添いながら興味関心を育めるよう、散歩を楽しんでいきたいと思えます。



<たんぽぽ組 (1歳児) > 『小さな自然、大きな喜び』

ふれあい公園や伊勢脇公園に散歩に行くと、子どもが「だんごむしいるかな」と保育士の手を引いて植え込みの方へ向かっていきます。植木の根本の土や落ち葉を一緒にかき分けると、ダンゴ虫が2匹いて「いたね」と嬉しそうに指でつまんで持ち上げてみせてくれました。近くにいる別の保育士の所にも行き、「ほら」と、ダンゴ虫を見つけた喜びを伝えています。その様子を見ていた子が、興味を持ったようで、のぞきにやってきました。興味はあるけれどなかなか触ることができません。触ってみようと、そっと指先でツンと触れてみては、すぐに手を引っ込めることを繰り返していくうちに保育士と目が合いました。その子の表情は怖いというよりもワクワクして楽しんでいるかのようでした。

日頃の園庭での虫探しで、花壇の土の中やプランターの下にいるということを経験してきているので、公園でも花壇や植え込みの所に目星をつけて虫探しを楽しんでいます。散歩先でも子どもたちと一緒に身近な自然と触れ合うことや虫探しを楽しみながら、見つけた時の驚きや喜び、そして親しみを感じている子どもの姿に共感しながら散歩にでかけたいと思っています。



<ひまわり組 (2歳児) > 『 やっぱり 』

友達や保育士と手をつなぎ、伊勢脇公園へ散歩に出かけています。公園で「先生、これなんだろう」とスッポリと殻に包まれた実を見せにきた子がいました。保育士が「なんだろうね、中に何か入っているのかな」と返すと、その実を見つめ少し考え「どんぐりのおうちだよ」と言います。「どんぐりのおうちなの？中に何か入っているのかな」と聞き返すと「うん、あけてみようか」とワクワクした表情です。実はその実はしいのみで、保育士が殻を少し破くのを手伝うと、茶色い実が顔を覗かせました。すると目を大きくさせ、「やっぱり」と発見の喜びが表情から溢れていました。側にいた子どもたちが「なに、なに」と近寄ってくると、嬉しそうに持っていた実を見せてくれました。「まだあるかな」と言って友達も一緒にどんぐり拾いが始まりました。

散歩に出かけると、様々なものに目をとめ、興味深く観察し、保育士に「これなんだろう」と尋ねる姿があります。これからも、子どもたちの興味や関心が膨らむよう、発見や気づきに共感しながら一緒に散策をしていきます。

